

おおみなみ



令和2年 3月2日 学校だより No. 12

児童数555名 家庭数450名



成長した姿

校長 檜垣 盛喜

弥生3月を迎え、学年のまとめに取り組みながら、進級に向けて意識を高めていく月になるはずでしたが、首相の要請を受け、練馬区教育委員会では、区内小中学校、小中一貫教育校は3月2日から春休みまで臨時休校をすることになりました。長い教員生活の中でも、このような経験は初めてで、2月28日の対応には戸惑うばかりでした。これまでの感染拡大の状況から、学校現場での拡散を防ぐ、何よりも子供たちの健康、安全を第一に考えた措置ということを考えてと仕方ありません。ご家庭でも、急な対応をとることになり混乱されていることと拝察します。

28日の金曜日は、今年度最後の登校になるかもしれないということを想定して1日を過ごしました。休み時間には、いつにも増して校庭で友達同士が楽しく遊ぶ姿が見られました。6年生も、友達とも別れを惜んでいるようでした。

6年生は、今月、6年生を送る会や卒業を祝う会などの卒業関連行事が予定されていましたが、すべて中止になってしまいました。2つの会の中で、1年生から5年生、そして保護者の方々に披露する予定だった合奏を発表する機会をもたせてほしいという6年担任の熱い思いを受け、6時間目に先生方を前に発表する機会を設けました。先生方だけでなく、事務職員、栄養士、ALT、相談員など、たくさんの職員が参観しました。これまでの練習の成果、感謝の気持ちをたくさん込めた素晴らしい発表をしてくれました。門出の言葉も発表してくれました。ほとんど練習していないにもかかわらず、立派な呼びかけでした。「6年生は、どんな思いで言っているのだろう。」「担任の先生は、どんな思いで聞いているのだろう。」と考えていると、目頭が熱くなってきました。これが最後かもしれない、この1回しかないという中で、これまで身に付けてきた全ての力を発揮した6年生の立派に成長した姿を再確認する機会にもなりました。

他の学年も同様に、この1年間で大きく成長しました。昨年4月に入学した1年生も、元気に挨拶できたり、幼稚園保育園との連携でお兄さん、お姉さんの意識をもって関わったりでき、頼もしくなりました。各学年とも、学校生活を通して、この1年間で着実に成長してきました。修了式や卒業式は、規模を縮小する形ですが、実施できることになったのでよかったです。子供たちの成長を大いに認め、新しい学年に向けての意欲を高めて生きたいと思います。

このような形で学年末を迎えることになりましたが、今年度は、周年行事もあり、いつも以上に保護者や地域の皆様にお力添えをいただきました。多大なご協力をいただきましたことに改めて感謝申し上げます。来年度も変わらぬご支援のほど、よろしく願いいたします。ありがとうございました。